



三嶋大社から出発する秋の即位奉祝パレード  
=三島市、全日写連・樋田進さん撮影

天皇即位を祝った県内各地の神社では、初詣を迎える準備が始まっている。正月三が日で60万人の参拝が予想される県東部最大の三嶋大社では、恒例の「大掃除」を20日に予定している。本殿などが煤払いで清められ、総門に長さ約5メートル、重さ約400キロの大しめ縄が飾られて、令和初の新春を寿ぐ。

(前静岡県監査委員・富永久雄)

# 令和元年の大掃除

## 一字 一筆

静岡の今

令和元年も師走となつた。12月13日は「正月事始め」。江戸時代から新年を連れてくる神様をお迎えする準備を始める日とされ、社寺や家々は住まいの汚れを清める「煤払い」をした。この習慣は、今も「大

掃除」として人々の暮らしの中で受け継がれている。

正月事始めの前後には物事の「けじめ」と「翌年回し」の整理が集中し、氣ぜわしく忙しい。

国政では9日、臨時国会が閉会した。「桜を見る会」をめぐって紛糾、野党は会期延長を要求したが、自民党は応じなかつた。同じ日、静岡県議会は12

月定例会が開かれていた。本会議での質疑は、リニア中央新幹線工事に伴う大井川の流量減問題に集中していた。選挙区も党派も異なる3人の県議がそろつて取り上げ、川勝平太知事や県議が登壇した時には、120席の傍聴席はほぼ満席。知事が答弁を事務方に回した時、傍聴席に失笑が起つた。この日、東京では調整に乗り出した国土交通省がJR東海幹部と勉強会。激しい反対運動の中で進められた成田空港建設を例に静岡県内工事着工に向けて事態打開の模索を続けた。県政最大の関心事となるリニア問題は、解決への道筋が見えないまま越年する。

5月から「令和」になつた今年後半は、大きな風が吹き荒れた。9月末から「ラグビー旋風」、10月は大型台風が東日本を襲い、消費税アップが家計を直撃した。その中で、天皇即位の厳かな儀式が肃々と続いた。